

横須賀地方総監部前アピール 2025年10月26日

台湾近海での演習を行わないことを強く求めます

10月3日、横須賀配備の掃海母艦「うらが」と佐世保配備の護衛艦「さわぎり」が「先島諸島南方の海域」で「機雷戦訓練を含む各種戦術訓練」を実施したと統合幕僚監部は発表しました。「先島」とは、宮古諸島と石垣・西表島・与那国島などの八重山諸島を合わせた島々の呼称です。

アジア太平洋戦争では、陸軍2800人、海軍2000人の「先島集団」がこの地域に展開し、司令部が宮古島に置かれていました。いままたこの地域に自衛隊の駐屯地が次々に開設され、増強されつつあります。与那国島から台湾までは110kmしかありません。

「うらが」は「掃海母艦」と呼称されますが、実質的には230発もの機雷を搭載する「機雷敷設艦」です。台湾に近い海域での機雷戦訓練の実施ははじめてのことだと思います。機雷を大量に搭載する艦艇の台湾への接近は、それだけでも緊張を高めます。私たちは、台湾近海での訓練を二度とやらないことを強く求めます。

今年の夏の、英空母プリンス・オブ・ウェールズの横須賀寄港以来、さまざまな日米共同訓練、日米韓、日米比などの多国間訓練が連続しています。

10月20日から31日までの日程ではじまった「自衛隊統合演習」は、過去最高の52300人もの自衛官を動員し、民間の空港、港湾をフルに使用した内容になっています。佐世保から鹿児島港への弾薬の長距離輸送、奄美大島への地対艦ミサイル部隊の集結と公園への展開など、有事の際の日米共同作戦の手順を具体的に一つずつ確認するもので、戦争準備としか思えません。こうした演習をただちに中止して下さい。いま求められているのは対話と外交で、軍事的圧力を強化することではないと私たちは確信します。自衛隊のみなさんも、中国との対話に力を注いで下さい。